日本スポーツ社会学会会報

Vol.59 号

目次

１．第 23 回日本スポーツ社会学会のご案内
　　大会委員会委員長あいさつ／大会スケジュール
２．研究委員会活動報告
３．編集員会からのお知らせ
４．理事会・総会報告
編集後記

日本スポーツ社会学会

Japan Society of Sport Sociology

広報委員会　2014 年 3 月

１．第 23 回日本スポーツ社会学会のご案内

1）YOKOSO SAPPORO！：第 23 回大会開催にあたって

第 23 回大会実行委員会委員長　大沼義彦

2014 年 3 月 21 日、22 日と北海道大学を会場に日本スポーツ社会学会第 23 回大会が開催されます。北海道での大会は、ちょうど 10 年前の第 13 回大会（北海道教育大学旭川校）以来、2 度目になります。旭川の大会では、大会終了後、歩くスキーのエクスカーション等も開催され、議論と共に冬のスポーツの魅力も同時に発信された大会となりました。大会実行委員会では、今回も、とも考えました（例えばカーリング体験等）が、会場等の都合もあり特別なエクスカーションは準備できませんでした。この点、お詫び申し上げます。ただ、札幌は 1972 年の冬季オリンピック開催都市です。いくつかの「遺産」を見ることができます。情報提供のみとはなりますが、当日、ご案内させていただければ幸いです。

さて、今大会は、一般発表が 27 題、二つのシンポジウム、実行委員会企画講演、学生フォーラムと充実した内容となりました。一般発表を申し込まれた会員の方々、座長をお引き受けいただいた方々、シンポジウムを準備・企画された研究委員会の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。とくに今回のシンポジウムでは、「体罰」と「オリンピック」が論じられます。ソチオリンピックが終了し、もうすぐパラリンピックが開幕します。札幌市では 2014 年度予算に冬季オリンピック開催に関する調査費が計上され、再度冬季オリンピックに対する「期待」が高まっているところです。こうした中、札幌にて「オリンピック」を見直してみることの意義は大きいと考えております。「体罰」も同様に、深く掘り下げた社会学的議論が展開される予定です。実行委員会では、北海道らしく「食」をテーマとした企画にしました。「同じ釜の飯を食う」ではないのですが、スポーツや体力、健康を支える「食」をこの機会に見つめ直してみたいと思います。

札幌は、ようやく最高気温が氷点下を上回るようになりました。ここ数日は温かく感じられ、道路のアスファルトも見えるようになりました。しかし、歩道はまだスケートリンク状態です。朝晩の冷え込みも本州のスキー場に近いかもしれません。大会当日の 3 月 21 日、22 日も気温や天候はどうなるかわかりません。「温かい服装」と「滑らない靴」をご用意いただければと存じます。

多くの皆様の参加を心よりお待ちしております。

2）第 23 回日本スポーツ社会学会のご案内

開催期間：2014 年 3 月 21 日（金）・22 日（土）
会　　場：北海道大学　学術交流会館
　　0-0811　札幌市北区北 8 条西 5 丁目　電話 011-706-2141

大会スケジュール
3 月 21 日
10：00-12：00　理事会
11：30-13：00　学生会員フォーラム
　テーマ：アスリートはどこへ行くのか？：「難民」なのか／「自己実現」なのか
　　話題提供者：　石原豊一（立命館大学）・吉田　毅（常葉大学）
　　指定討論者：　高橋義雄（筑波大学）
13：00-16：00　一般発表
16：00-17：00　実行委員会企画講演
　テーマ：ナチスのキッチン――来たるべき台所のために
　　演　者：藤原辰史（京都大学）
　　司　会：石岡丈昇（北海道大学）
17：00-18：00　総　会
18：30-　懇親会
3 月 22 日
09：00-12：00　一般発表
13：00-16：00　研究委員会企画シンポジウム①「スポーツと教育」②「政治とスポーツ」
　①スポーツと教育の場における体罰の位相
登壇者：西山哲郎（関西大学）「体罰」を容認する日本の教育制度と身体観について
　　奥村　隆（立教大学）「スポーツを教える」ことをめぐるダブル・バインド
　　加野芳生（香川大学）近代の学校教育制度と暴力：「いじめ」と「体罰」を中心に
司　会：杉本厚夫（関西大学）
　②2020 年東京オリンピック・パラリンピック招致活動における東北
登壇者：潮　智史（朝日新聞）主語の見えない東京五輪
　　黒須　充（福島大学）2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催と被災地支援活動
　　來田享子（中京大学）オリンピック・ムーブメントと開発・災害支援
　　司会：坂なつこ（一橋大学）・高峰　修（明治大学）

詳細は学会 HP をご参照ください：http://jsss.org/theme/custom/media/programme.pdf

２．研究委員会活動報告

研究委員長　西山 哲郎

前回の学会大会から、学生フォーラム企画はメンバーが刊行した著書をベースに構成してきました。今回の北大での大会でも、関西学生フォーラムの世話役である石原豊一氏の著作を発想の出発点とするため、まずは 10 月に書評会を開きました。

その活動報告を以下に掲載しますので、今次大会の学生企画シンポジウムの予告編としてご覧いただけたら幸いです。

関西学生フォーラム書評会活動報告

石原豊一『ベースボール労働移民：メジャーリーグから「野球不毛の地」まで』（河出書房新社、2013）を読む
日時：2013 年 10 月 19 日（土）14：00～17：00
会場：龍谷大学セミナーハウス「ともいき荘」２階研修室
著者：石原豊一氏（立命館大学）
評者：窪田暁氏（国立民族学博物館外来研究員）
　　小坂亮太氏（中日新聞北陸本社編集局）
　　小丸超氏（龍谷大学大学院社会学研究科研究生）

関西学生フォーラムでは、日本スポーツ社会学会第 23 回大会での学生フォーラムのプレイベントとして、上記の書評会を行なった。対象となった石原豊一氏の『ベースボール労働移民：メジャーリーグから「野球不毛の地」まで』は、世界を股にかけたフィールドワークから、これまでのスポーツ労働移民研究では捉えきれなかった位相とそのリアリティを多角的に論じたものである。当日は、本書の鍵概念であり、人材獲得や放送網の拡大、マーチャンダイズの展開などを含めた資本の論理によるネットワークの拡大を意味する「ベースボール・レジーム」をめぐって、活発な議論が展開された。

特に議論の焦点となったのは、石原氏のいう「ベースボール・レジーム」が地球規模で拡大するなかで、その周縁に立ち現われてきている資本の論理のみに回収し尽くされない事象をどのように考えるかということであった。第４章で取り上げられている低賃金で競技レベルも低いイスラエルリーグに参加する選手の事例からは、休暇を利用してプロ野球選手という夢を体験する「バケーション型」や、確固たる社会的地位を築けないままに漠然とした夢を追い求める「自分探し型」といった、従来の枠組みでは捉えきれない経済的理由とは異なるスポーツ労働移動が見出されている。また第６章では、安価な労働力として一部の有望選手のために利用される「かませ犬」となっている例が紹介されていた。日

本の独立リーグにおいても、たとえ少額でもプレーで報酬を得られるというかけがえのなさを求めて参加する選手は後を絶たない。そこには、野球を「逃避」や「自己実現」の手段として現代社会を生き抜こうとする若者たちの姿があるように思われる。今回の書評会では、彼らが直面している現実に目を向けた研究の必要性が確認された。

以上のことを踏まえて、関西学生フォーラムは、日本スポーツ社会学会第 23 回大会において「アスリートはどこへ行くのか？：「難民」なのか／自己実現なのか」と題したシンポジウムを開催することにした。アスリートの実状やセカンドキャリア形成などについて多くの会員の皆様とともに議論することで、学会が今後取り組んでいくべき課題を見つめ直したい。

浜田雄介（広島市立大学）

日本スポーツ社会学会第 23 回大会学生フォーラム
「アスリートはどこへ行くのか？：「難民」なのか／自己実現なのか」
日時：2014 年 3 月 21 日（金）11：30～13：00
会場：北海道大学学術交流会館第 4 会議室（C 会場）
話題提供者：石原豊一氏（立命館大学）
　　吉田毅氏（常葉大学）
指定討論者：高橋義雄氏（筑波大学）

３．編集委員会からのお知らせ

編集委員長　松田 恵示

現在、第 22 巻 1 号の編集作業が大詰めを迎えています。特集論文は、3 月に北海道大学で行なわれる学会大会の研究委員会シンポジウムのテーマとなっている「体罰」についてです。シンポジウムを先に行うのではなく、研究誌での特集を先行させてシンポジウムと「シンクロ」させるというのは、研究委員会と連携した今回初めての試みです。どうぞお楽しみにしてください。

また、投稿論文、研究ノート、書評で今号の内容も構成されていますが、今年度は、論文投稿数が、例年に比べて若干少ないように感じています。査読体制や、校正、ネイティブチェックの仕方等、今年度の編集委員会では、新しくいくつかの工夫や改善を図っています。

次号への投稿論文は、平成 26 年 3 月 30 日（消印有効）が締め切りです。ぜひとも、多くの論文投稿をお待ちしておりますので、ふるってご投稿いただけますようにお願い申し上げます。

４．理事会・総会報告

1）2012 年度　後期理事会・総会議事録要旨
2）2013 年度　第 1 回理事会議事録要旨
3）2013 年度　第 2 回理事会議事録要旨

1）2012 年度　後期理事会・総会議事録要旨

日　付：2013 年 3 月 17 日
場　所：福山大学学校連携推進センター宮地茂記念館

１．審議・報告事項

＜事業報告　および 2011 年度 2012 年度決算報告・監査報告及び承認＞

①編集委員会

西山編集委員会委員長より、2012 年度の事業報告および会計報告がなされ、これが承認された。

②研究委員会

伊藤研究委員会委員より、2012 年度の事業報告および会計報告がなされ、これが承認された。

③国際交流委員会

松村国際交流員会委員長より、2011 年度決算、並びに 2012 年度の事業報告および会計報告がなされ、これが承認された。

④広報委員会

甲斐広報委員会委員長より、2011 年度決算、並びに 2012 年度の授業報告および会計報告がなされ、これが承認された。

⑤事務局

高橋事務局長より、会員管理事務等を創文企画に業務委託したこと、会員メーリングリストの作成・情報発信、選挙管理委員会の事務作業を行ったことについて報告があり、これが承認された。配布資料に基づき 2011 年度決算、並びに 2012 年度の会計報告があり、これが承認された。また、2012 年度は延べ 72 か年分の過年度未納会費が納入されたことも合わせて報告された。

２．2013 年度事業計画と申し送り・引き継ぎ事項

①編集委員会

西山編集委員会委員長より、創文企画との契約更新等の課題が報告された。

②研究委員会

伊藤研究委員会委員より、課題研究の推進、学生会員フォーラムの支援を含め、編集委員会と広報委員会等と密に連絡を取りながら事業を進めることが報告された。

③国際交流委員会

松村国際交流委員会委員長から、2012 年に本学会から会員を韓国スポーツ社会学会に派遣する予定であったが招待状が届かず派遣できなかった経緯が報告された。その後、国際交流委員会から、韓国スポーツ社会学会と協定内容を毎年確認することが提案され、年度ごと引き継ぎの確認等を行うことが了承された。また、予算的に交流範囲が東アジアに限定されてしまうことも含め、次期理事会にて国際交流のあり方を検討してほしい旨の報告があった。

④広報委員会

甲斐広報委員会委員長より、HP 更新作業のあり方、会報の内容、メールによる会員配布方法、会報の HP への掲載時期、各種広報依頼の取扱いに関する課題について報告された。会報の HP 掲載については、HP に即時掲載することを含め、これらを次期理事会に申し送ることが了承された。

⑤電子査読導入検討委員会

西山検討委員会委員長より、電子査読導入に対する早急な対応が困難であることから、電子査読導入検討委員会を電子ジャーナル化の問題点も含めた電子ジャーナル検討委員会として継続審議することを次期理事会に申し送ることが提案され、これが承認された。

⑥事務局

高橋事務局長より、次期理事会では各種委員会で新規事業への予算化も必要となることから、各委員会の 2012 年度決算を確定した後、事務局から各委員会の予算残額に応じて 2013 年度予算に対する不足分を各委員会に配分する等の調整を行うことが提案され、これが承認された。

３．2013 年度予算案および承認

高橋事務局長より、配布資料に基づき説明があり、これが承認された。

４．学会財務状況と会費について

高橋事務局長より、2012 年度会費収入（過年度未納分）が伸びたこと、2013 年度予算が会費収入と支出が均衡する見通しであることから、会費値上げの必要のないことが報告された。

５．顧問候補者推薦について

高橋事務局長より、配布資料に基づき、井上俊、亀山佳明会員を理事会として新規に顧問候補者として推薦することが提案され、これが承認された。また、現在の顧問も役員であることから、顧問の継続を総会に諮ることが提案され、これが承認された。総会において、この理事会提案が承認された。

６．第 23 回学会大会の開催について

高橋事務局長より、次期大会を北海道大学で行うことが提案され、これが了承された。またトンプソン理事長より再来年の学会大会開催地についても次期理事会にて早期に決定することを申し送ることが了承された。

７．新会長の選出について

亀山会長より、新会長選出に関する審議経過の説明の後、井上理事から会長選出方法の変更に関する規約、及び選出方法、手続きについて説明、提案があった。その後、亀山会長より、旧理事から、亀山会長、トンプソン理事長、高橋事務局長、井上理事が新会長選出までの進行、手続きを行うことが提案され、これが承認された。

８．理事選挙経緯及び結果（選挙管理委員会）

高橋事務局長より、理事選挙の結果について報告された。

９．会員動向について

高橋事務局長より、平成 24 年 8 月から平成 25 年 3 月の新規入会者 14 名、退会者 7 名について報告がなされた。

以上

2）2013 年度　第 1 回理事会議事録要旨

期　日：平成 25 年 3 月 17 日（月）17:00－18:00
場　所：福山大学学校連携推進センター宮地茂記念館 8 階 804 号室
出席者：井上、亀山、高橋義、トンプソン（以上、旧理事により途中退席）
　　石坂、伊藤、大沼、菊、後藤、清水、西山、前田、松村、山下
欠席者：松田、山口

１．審議事項

（1）会長選出方法について

亀山会長、井上理事より会長選出に関する規約改正の趣旨、及び選出方法の説明（新理事による単記無記名投票、過半数を超えた者がいない場合には、上位二名による決選投票により決定する）があり、これが承認された。

（2）会長および各種委員会委員長、委員の選出

（1）により承認された方法によって、会長に伊藤理事が選出された。その後、各理事の互選により、以下の各種委員会委員長、委員が選出された（〇印：委員長）。

理事長：菊
編集委員会：〇松田、石坂
研究委員会：〇西山、松村
国際交流委員会：〇山下、大沼、山口
広報委員会：〇清水、前田
電子ジャーナル検討委員会：〇石坂、後藤

尚、事務局長、並びに会長推薦理事とその役割分担については、伊藤会長、菊理事長とで検討し、一任することが諮られこれが了承された。

以上

追記：2013 年 3 月 27 日のメール理事会にて、会長・理事長に一任されていた人事について理事に報告され、以下のように、理事・監事の役員構成が最終的に承認された。

H25－26 年度日本スポーツ社会学会役員一覧

・会長…伊藤公雄
・理事長…菊幸一
・事務局…〇中江桂子
・研究委員会…〇西山哲郎、松村和則、杉本厚夫
・編集委員会…〇松田恵示、石坂友司、依田充代
・国際交流委員会…〇山下高行、山口泰雄、大沼義彦
・広報委員会…〇清水諭、前田博子
・電子ジャーナル…〇石坂友司、後藤貴浩
・監事…小谷寛二、北村薫

以上

3）2013 年度　第 2 回理事会議事録要旨

期　日：平成 25 年 8 月 30 日（金）15：00～18：20
場　所：ハートピア京都（京都府立総合社会福祉会館）視聴覚室
出席者：石坂、伊藤、大沼、菊、後藤、清水、杉本、中江、西山、前田、松田、松村
（以上、理事）
北村（幹事）、小谷（幹事）、高尾（事務局庶務）
欠席者：山口、山下、依田

1．報告事項

1-1　各種委員会事業の進捗報告

（1）編集委員会

松田編集委員長より、2013－14 年度編集委員会の構成、第 21 巻 2 号編集状況、前年度委員会からの引き継ぎ事項等について報告があった。引き継ぎ事項については、4 月に創文企画との間で業務提携に関する契約の更新がされたこと、電子化の検討について新設された「電子ジャーナル検討委員会」に業務移管があったことが報告された。

その他、①体裁規約の明示化と公表の提案、②依頼論文をレフェリー付論文相当とみなすことの確認、③学会誌第 22 巻からネイティヴによる英文アブストラクトのチェック体制確立、が報告された。

（2）研究委員会

西山研究委員長より、前期委員会からの引継ぎ事項、今期編集委員会の編成、平成 25 年度の活動、2014 年 3 月開催予定の学会大会での研究委員会企画シンポジウム、平成 26 年度の世界社会学会議について報告があった。今期の委員会では「政治とスポーツ」「教育とスポーツ」を研究委員会企画シンポジウムのテーマとして取り上げることが報告された。また、世界社会学会議における若手の報告をサポートするため、英語に堪能なサポート委員（関東：金子文弥会員、関西：倉島哲会員）を置くとの報告があった。

（3）国際交流委員会

大沼国際交流委員より、2014 年 7 月開催予定の世界社会学会大会（R 27 部会）についての方針、日韓交流協定に基づく 2014 年企画についての課題と方針について報告があった。昨年度委員会からの引き継ぎとして、世界社会学会大会の開催に関しては、本会としては直接の関与を持たないこと、ただ広報支援および関連企画の検討を進めているとのことであった。

（4）広報委員会

清水広報委員長より、2013－2014 年度の事業内容および 2013 年度の事業計画について報告があった。なお、現在「会報」をウェブ上にて公開している件について、意見が求められた。「原稿執筆者については『公表する』ということを一言アナウンスしたうえで、公開することが望ましい」との意見が伊藤会長より提出され、広報委員会もそのように対応するとのことだった。

（5）電子ジャーナル委員会

石坂電子ジャーナル委員長より、電子査読導入検討委員会設置の経緯、電子査読システム導入検討に至る経緯、システム導入のメリット・デメリット、経費の問題、システム導入・運営に向けた技術的な対応策、以上を踏まえた結論について報告があった。

また、政府等の助成金の動向をうかがいつつ、導入コストの軽減を図っていく方針をとっているとの補足説明が、西山理事よりなされた。

（6）創立 20 周年記念出版編集委員会

中江委員より、日本スポーツ社会学会編『21 世紀のスポーツ社会学』（創文企画）について、学会 HP で公表予定の「訂正文」および書籍に挟み込む「お詫びと訂正」の内容について報告があった。

訂正を出すことにいたる事情について、さまざまな議論がなされ、今回は新旧理事会の連絡が充分でなかったことなどによる混乱があったので、今後は、学会としての事業における連絡体制の整備や会員への周知について、理事会として今後も議論していくこととした。なお、9 月より書籍に挟み込む「お詫びと訂正」は「日本スポーツ社会学会・『21 世紀のスポーツ社会学』編集委員会」名（もしくは「日本スポーツ社会学会／『21 世紀のスポーツ社会学』編集委員会」）で作成することが合意された。

1-2　その他報告

（1）日本スポーツ体育健康科学学術連合総会報告

出席した菊理事長より、同組織の参画組織が開催するシンポジウムに対する助成金について、報告があった。菊理事長によれば、助成金申請時期をもう少し遅らせることを強く要望したとのことであった。また、助成金獲得に向けて、本会における研究委員会および大会実行委員会の作業も、次年度から早めに取り掛かることが確認された。

（2）第 22 回学会大会決算報告

大会実行委員の小谷会員（幹事）より決算報告があった。残金 10 万円を「事務局への寄付」とする案が提示され、特別会計に組み入れることで了承された。

1-3　事務局報告

（1）創文企画との契約書

中江事務局長より、「契約書」の内容が資料として提示され、概要が報告された。

（2）学会費の納入状況

中江事務局長より、会費納入率は理事会開催時点で 58%に留まっており、学会誌最新号送付前に会員に向けて注意喚起のメールを送信する予定であることが報告された。また、大学での会計処理の多様化に伴い、学会名を記載した請求書の作成を検討する、あるいは大学からの振込みの場合は、事前に事務局宛にメールを送ることを会員に義務付ける、といった対応策を検討していることが報告された。

（3）学会会計の中間報告

中江事務局長より、「支出記録」の内容が資料として提示され、概要が報告された。

2. 審議事項

（1）今年度学会大会準備状況〈大会実行委員会〉

2014 年 3 月、北海道大学にて開催予定の学会大会について、大会実行委員である大沼理事より進捗状況について説明があった。期日、場所、大会実行委員会企画等について、承認された。

また、各委員会企画と個人発表のバランスを勘案したプログラム作成のあり方について、協議が行われた。その結果、各種シンポジウムは理事会に集約し調整するとともに、原則として研究委員会企画と主催校企画に優先権を与えることが承認された。

（2）来年度学会大会開催地について〈理事長〉

これまでの開催地の状況を鑑み、信州大学長野キャンパスでの開催を打診するという案が菊理事長より提示され、承認された。

（3）学会創立 25 周年記念誌について〈会長〉

伊藤学会長より「学会創立 25 周年記念誌」作成について、①趣旨としては記録を重視、②形式としては学会主導で作成（出版社は関与しない）、③編集委員として井上俊会員、池井望会員、松村和則会員の 3 名に依頼する、という案が提示され、承認された。

（4）学会誌未着の問い合わせへの対応について〈事務局〉

中江理事（事務局長）より新たな対応案として、

①学会誌発送日を学会 HP および ML にて会員に周知し、未着の場合には発送日より 2 ヶ月以内に事務局に問い合わせてもらうよう会員にお願いする

②創文企画に発送記録があり、雑誌が返送されない場合、かつ 2 ヶ月以内に会員からの問い合わせがない場合は、雑誌は会員に届けられたものとし、2 ヶ月経過後の未着の問い合わせには、一切応じない

③2 ヶ月経過後に雑誌の要望があった場合には、バックナンバー購入を勧める

の 3 点が示された。

審議の結果、「原則として 2 ヶ月経過後の未着の問い合わせには、一切応じない」という修正（下線部）が施され、承認された。

（5）学会名簿の更新について〈事務局〉

中江理事（事務局長）より、会員名簿の更新について、これまでの紙媒体での作成および送付を停止し、PDF 化および HP 上での公開（パスワード付）による新しい仕組みが提案された。

審議の結果、現在、名簿データの管理業務を委託している創文企画と事務局とで協議しつつ、新たな名簿更新の仕組みに移行することが承認された。

（6）会員の新規入会と退会について〈事務局〉

中江理事（事務局長）より、入退会者について説明があり、これが承認された。

なお、「今年度の会費を納付済みで、かつ今年度いっぱいでの退会を申し出ている会員については、今年度中は会員として処遇する」という点も、あわせて確認された。

以上

編集後記

３月に入っても、暖かくなってきたという感じを得られないこの頃です。ソチ冬季オリンピックは、テレビで観ている限り、ロシアの人々の楽しそうな雰囲気の中で終了しました。しかしながら、近隣国ウクライナでの内紛が連日のように報道され、「オリンピック休戦」の思想と歴史は、プーチン氏（ロシア連邦大統領）と関係者などによって簡単に葬り去られてしまいました。ソチには、「オリンピック」を冠したロシア国際オリンピック大学（RIOU）も設置されていますが、IOC はこうした状況をどのように思っているのか。

スポーツ社会学のテーマは、まだまだたくさん生まれてくるでしょう。視野を地球規模課題に広げたり、あるいはぐっと狭めて深く見たりしながら、今後のヴィジョンと戦略を考える時期にあるように思います。（S.S.）

◆学会への連絡、入退会、住所･所属･メール等の変更、会費納入、その他の各種手続き

日本スポーツ社会学会事務局　　中江 桂子 【事務局長】

高尾 将幸 【事務局庶務】

E-mail: jsssjimukyoku@gmail.com

◆学会公式ホームページ

日本スポーツ社会学会公式ホームページ

http://www.jsss.jp/